

見学会報告
ふじのくに地球環境史ミュージアム見学会
事務局



ミュージアム整備課事務室で説明を聞く参加者



コミュニケーションホールの眺めを楽しむ

10月17日(金)と19日(日)に、まだ一般公開がされていない「ふじのくに地球環境史ミュージアム(整備課大谷分室)」の見学会を行い、22名が参加しました。

現在のミュージアム整備課大谷分室は、前号でお知らせしたように、9月に引越してきたばかりで、やっと標本室が整い始めたところでしたが、参加者の皆さんはこれからのどのような博物館になっていくのかと、いろいろ質問をしながら、熱心に見学されていました。

ここでは、参加されていた本多さんと渡辺さんに感想をいただきましたので、ご紹介します。

本多佐ありさんの感想

オープン前の博物館や、通常では入る事のできないバックヤード部分を見る事ができる、非常に貴重な体験でした。

敷地が広く、建物は再利用と言っても綺麗で魅力的です。特に、中庭と和室は今後どのように使われるのかが興味深いです。

バックヤードには膨大な数の標本があって圧倒されました。いくつもある標本室が、それぞれ十分な広さがあるのに、どこもすでに標本でぎっしりという感じです。この見学会では、それらをととても気軽に自由に見せていただけなのが嬉しかったです。

ボランティアでできる事もまだまだありそうで、自分も何かしら関わっていただけたらと思う素敵な場所でした。本当に、これからが楽しみです。

渡邊 忍さんの感想

主だった資料は箱詰めだったりロッカーに入ったりしていたので、資料自体の見学は少なかったのですが、ミュージアムになる前の展示室の空間などを事前に見るのは初めてでしたので、いろいろ想像が広がり楽しい見学時間でした。

高校の建物の再利用との事で、他の博物館と全く違った雰囲気や展示内容が味わえるのではないのでしょうか。大小さまざまな教室などを使った展示室は重厚感が出たり、シンプルなデザインの展示が出来たり、今から楽しみです。またコミュニケーションホールは窓が大きく、天気良ければ、駿河湾・御前崎が望めるので、展示品を見て心地良く疲れた頭や身体には良い休憩場所になると思います。強いて言えばアクセスが問題ですね。中心街から離れているので、遠方の方は公共交通機関での見学かと思いますが、ちょっと不便です。もっともそれだけに静かで良いところです。